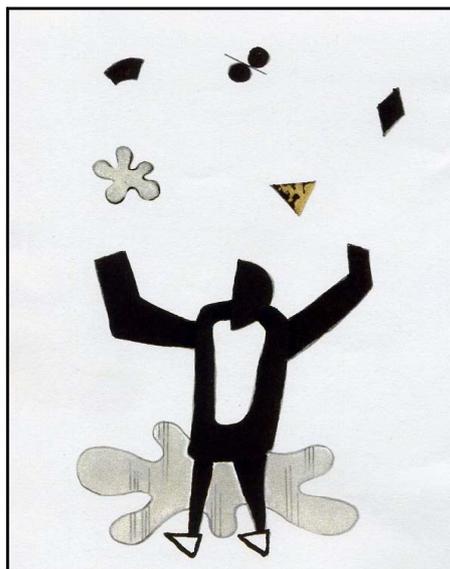


知識は 旅をする

千葉県立東部図書館だより
2011年6月

第38号



5. 知識は人々に降り注ぎ さらに旅を続ける

本館1階閲覧室の壁面を飾る、此木三紅大(このきみくお)さん制作のレリーフ「知識は旅をする」、10点の作品を順番に紹介しています。

作：此木三紅大氏 松山庭園美術館（匝瑳市） 館主

本との出会い

このたびの大震災により、当館をご利用の皆様にはご不便をおかけしましたが、5月から通常の開館時間に戻り、ほっとしているところです。

現在、1階閲覧室で「県民の本棚～であい、ふれあい『ちばの100冊』～」と題した図書展を行っています。この図書展では、昨年度県民の皆様から「千葉県らしさ」が表れている本としてご推薦いただいた1,390冊の中から、100冊を選定し、4月から県立図書館3館持ち回りで(西部→東部→中央)順に展示しています。

「ちばの100冊」の中に、川本三郎著『火の見櫓の上の海 東京から房総へ』という本がありました。著者はどんな人だろうかと調べるうちに、20代の強烈な体験を書いた作品『マイ・バック・ページ』があることを知りました。当時週刊誌の記者をしていた川本氏が、昭和46年埼玉県にある陸上自衛隊朝霞基地で起こった自衛官殺害事件を中心に、雑誌記者として経験した昭和40年代中頃の様々な出来事を綴った作品です。

46年8月21日深夜、殺人犯のKから「いま、朝霞の自衛隊基地を襲撃してきた」と突然の電話が川本氏にかかってくる。この時代にまだ生まれていない皆さんも多いかと思いますが、同書のいたるところで自分はこのとき何をしていただろうかと、わが身を重ね合わせながら読みました。

昨年皆様からご推薦いただいた本を契機に、40年ほど前の世相をまざまざと思い出す作品に出会うことができました。この本は映画化され、5月下旬から全国各地の映画館で上映されています。

館長 森田 幸三

■トピックス

▼県民の本棚「ちばの100冊」

5月21日から6月14日まで、「千葉県らしさ」が表れている本として県民の皆様からご推薦いただいた本の中から、100冊を選定した展示を行っています。

▼企画展

- ・現在展示中
「文学散歩」むかし話・民話の世界
4/16(土)～7/14(木)
- ・次回展示予定
千葉県にゆかりのある文学(仮題)
7/16(土)～10/10(月)

▼図書館の達人

- ・(初級編)「図書館見学会」と「検索研修」6/12, 7/10, 8/14
午前10:30～11:30
 - ・(中級編)「検索研修」県立図書館に所蔵していない資料の探し方
6/19, 7/17, 8/21
午前10:30～11:00
- ※9月以降も予定しています。

ホームページURL
<http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>

携帯電話サイトURL
<http://www.library.pref.chiba.lg.jp/m/>
携帯電話機のQRコードリーダーでアクセスできます→





参考図書カフェ (9)

『苗字から引く家紋の事典』

高澤 等／著 東京堂出版 2011

請求記号[2886/34(参考)]



東部図書館には、多くの参考図書があります。

参考図書は、何か特定の知識・情報について調べるための資料です。辞書や百科事典、便覧、統計書などで、小説のように通読するものではなく、言葉が五十音順に並べられていたり、索引が用意されていたりと、必要な部分を簡単に探し出せるように編集されています。そのため、短時間で簡潔な知識を得るのに便利です。

今回紹介するのは『苗字から引く家紋の事典』です。

自分の先祖や出自について知りたいと思ったことはありませんか？そんなときに手にとってほしい本です。

現在日本で用いられている苗字は、異体字を区別すると約10万、読み方の違いも含めれば約30万にも及ぶそうです。この本では、その中から日本の人口の70パーセント以上をカバーする主要1000苗字が取り上げられています。そして、苗字と同じように個人や家を特定するための重要な目印であった家紋や発祥地とされる土地名、その氏の発生した状況や事績、他の氏族との関係などを苗字ごとに確認することができます。



関連一般図書



『卍の魔力、巴の呪力 家紋おもしろ語り』

泡坂 妻夫／著 新潮社 2008 請求記号[2886/30]

仏様の髪の毛を表す吉祥の卍、火災を防ぐ巴の渦…。小さな紋章に込められた切なる願いと奇抜な由来。日本人の細やかな感性と造形へのこだわりが紋章上絵師の視点から、多数の図版とともに紹介されています。

『家紋で読み解く日本の歴史』

鈴木 亨／著 学研 2003 請求記号[2886/23(書庫)]

平安末期から鎌倉時代にかけて発生したといわれる家紋の成り立ちと、貴族社会から武家の時代に使われ続けた数々の家紋に託された、一族の夢と野望——。日本史の流れに沿いながら、家紋の発祥から現代までの足跡をたどります。

レファレンスあれこれ (35)

資料に関する調査・相談にお答えしています。過去に寄せられたご相談の事例を紹介します。

「別れの詩」という漢詩について

【質問内容】

6世紀頃の漢詩「別れの詩」「昔去るとき 雪花のごとし…」について知りたい。

【調査経過及び結果】

- 漢詩の題名、詩の中の語句の一部やおおよその時代がわかっていますので、手がかりとして、インターネット検索エンジンを使います。
 - Googleで「別れの詩」「昔去るとき 雪花のごとし」をキーワードとして検索します。いくつかのサイトに「天声人語」2011年4月17日で「昔去るとき 雪花のごとし/今来たれば 花 雪に似たり」という6世紀中国の漢詩で、「別れの詩」という題の記載が見つかります。天声人語は、朝日新聞のコラムですから、当日の新聞を見ると、確かに記載がありました。
 - 中国の漢詩なので、この詩の漢字部分「別 詩 昔 去 雪 花 今 来 花 雪 似 」で再度Googleを検索すると、中国の中華詩詞網のサイトに、「別詩」「洛陽城東西，長作經時別。昔去雪如花，今來花似雪。」南北朝の范云の作とありました。(中華詩詞網 <http://www.haoshici.com/Fanyun1080.html>)
- 次に、国立国会図書館のホームページの「リサーチ・ナビ」を「漢詩」で検索し、調べ方を探します。相馬宏「中国詩詞翻訳索引 V 先秦～隋代」『参考書誌研究』63号(2005.10)の索引から、作者の范雲(范雲 はんうん)、作品名「別れの詩」(別詩)を手がかりに、この漢詩が収載されている資料を調べます。『中国古典文学大系 16 漢・魏・六朝詩集』の「別れ」(范雲):341-342ページに訳文と注がありました。五言詩で、499年の作です。
- このほか、最近の本では、『漢魏六朝の詩 下』の「別詩」(別れの詩)范雲(はんうん 梁):156-157ページに、原文、書き下し文、訳文と注があります。また、『全梁詩索引』の索引から第1字目の「昔」の字のところに「○去雪如花」(范雲)別詩-3(7)とあり、7ページに「別詩」の原文の記載があります。

【提供資料】

『中国古典文学大系 16 漢・魏・六朝詩集』(伊藤正文編訳 平凡社 1972)
『漢魏六朝の詩 下』(石川忠久編著 明治書院 2009)
『全梁詩索引』(佐藤利行[ほか]編 白帝社 2000)

●担当者のコメント●

- 最初の手がかりを得るために、インターネット検索エンジンを活用し、実際の図書館資料できちんと確認して、資料の裏を取ることがコツです。
- 探す手がかりには、中国か日本、おおよその時代、作者、作品名、詩の中の語句があります。漢詩の出典、口語訳、書き下し文の調べ方案内として、国立国会図書館のホームページの「リサーチ・ナビ」を見ると便利です。



名作映画鑑賞会のご案内

毎月第3土曜日に、名作映画鑑賞会を開催しています。(入場無料)

開場：午後1時15分～ 映画上映：午後1時30分～

場所：東部図書館3階研修室

★ 6月18日(土) 『ミスティック・リバー』 監督:クリント・イーストウッド

主演:ショーン・ペン

★ 7月16日(土) 『マザー・テレサとその世界』 監督:千葉茂樹

文化息づく祭の殿堂

～北総の小江戸 水郷佐原山車会館～

「佐原の大祭」をご存知でしょうか。一度はご覧になったとおっしゃる方が多いのではないかと思います。

佐原の町は古くから利根川の舟運で栄えてきました。

その長い歴史の中で華々しい独自の文化を開花させてきました。その集大成が「佐原の大祭」と「佐原囃子」と言えます。大祭は夏と秋の年2回行われ、高さが8～9m、重さ約4tもの大きな山車が、何台も町の中を曳き廻される雄大なお祭りです。

夏は「八坂神社の祇園祭・夏祭り」で、山車が10台、秋は「諏訪神社の秋祭り」で、14台の山車がそれぞれ佐原の町の中を曳き廻されます。

江戸時代から約300年続く「佐原の大祭」は「佐原囃子」と共に、平成16年に重要無形民俗文化財として、国の指定を受けました。

本来なら、年2回だけしか上の写真のような豪華絢爛な山車を見ることができません。そこで、いつでも祭りの熱気と興奮・本物の迫力を味わえるようにと「水郷佐原山車会館」が、昭和63年に開館しました。



中へ一步入りますと、お囃子が聞こえてきます。大祭に欠かせない「佐原囃子」です。

この山車会館は、展示室が3階まであります。

1階は山車展示室と共に、ビデオシアターがあります。ビデオシアターは3面パノラマ大画面で、大祭の迫力と熱気が体験でき

ます。展示室では、日本一の「大人形山車」が見学者を迎えてくれます。3階まで吹き抜けになっていて、その大きさを間近で感じる事ができます。また、山車に施されている重厚で繊細な彫刻もじっくり観察することもできます。(山車は常時2台展示)



山車の他にも、お囃子で使われる太鼓や笛等の楽器や神輿等も展示されています。

祭りに使う半てんと提灯が用意され、それらを身に着けた

り、記念写真を撮ったりと、伝統あるお祭りの気分を味わうことができるコーナーもあります。

「水郷佐原水生植物園」で実施される「あやめ祭り」開催期間中(5/28～6/26)は、無休で開館しています。この機会にぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

◆所在地 香取市佐原イ3368
(八坂神社境内)
(Tel 0478-52-4104)

◆開館時間 午前9時～午後4時30分
※祇園祭中は午後8時30分まで

◆休館日 月曜日(祝日は開館)
年末年始(12/29～1/1)
※あやめ祭り期間中は、無休で開館しています。

◆入館料

	個人	団体 (15名～)
一般・大学, 高校生	400円	350円
小・中学生	200円	150円

■ 県立図書館の資料は、市町村立図書館などを通じて利用することもできます。

お近くの図書館、あるいは公民館図書室等の読書施設にご相談ください。

■ 県立図書館では、千葉県に関する資料を収集しています。

グループ・職場などで資料を発行されたときには、情報をお寄せください。

編集長の独り言

東日本大震災では、県内でも甚大な被害に遭いました。亡くなられた方々、ご家族の皆様にお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様にご心からお見舞い申し上げます。図書館としましても、復興に向けてできるところから協力して参ります。

編集・発行：千葉県立東部図書館
〒289-2521

千葉県旭市ハの349

Tel 0479-62-7070

URL: <http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>